

新川神社新庄御鎮座四百年記念

鷹乃羽伝統文化継承道場

鷹乃羽雅樂會

(日程改訂版) 初心者募集要項

新川神社が主催する伝統文化継承道場の一環である鷹乃羽雅樂会は「雅樂はやってみたいけど、むずかしそうだから～」とか、「吹いてみたいけど教えてくれるところが無いので・・・」など、取り組む機会が有りそうで無かった富山市において、気軽に誰でも体験、挑戦して戴ける場として平成24年に始まり、現在第一期生約30名が御神前や人前で演奏できるようになりました。

この度、新たに新規初心者を下記の通り募集いたします。年齢、性別、音楽的素養は問いません。学校での音楽の知識は必要ありません。音痴でも構いません。好奇心と情熱が大事なのです。「やってみよう」という気持ちがあればどなたでも参加してみてください。宮内庁楽師から指導を受けた富山県神社庁雅樂部の神職が一からやさしくお導きいたします。

鎮守の杜で日本古来の雅やかな音を一緒に楽しんでみませんか。心よりお待ち申し上げます。

□ 開催日時

第2期生 平成28年3月～平成28年11月まで 全15回 ※日程は裏面参照

午後6時30分～7時30分まで1時間 ※(午後7時30分～第一期生温習の見学可)

□ 場 所 新川神社境内 [全体温習会場:新川神社参集殿]

(管別温習会場) 笙^{しょう}:新川神社拝殿 篳篥^{ひちりき}:社務所か参集殿 龍笛^{りゅうてき}:参集殿

□ 募集人員 各管10名程度

□ 担当楽器 龍笛、篳篥、笙のいずれかです。一度体験されてから決められても結構です。

□ 授業料 受講1回につき1,000円 年間15回15,000円 (但当日欠席時返金無、月毎分納可)

□ 申し込み 電話にて住所・氏名・連絡先住所・希望楽器をお伝え願います。

新川神社 禰宜 船木信孝 (076-441-8186) まで

いろいろ(元和二年:1616)な 苦難を乗り越え 400年

祝:平成28年 新庄御鎮座 400年



<http://niikawajinja.com>

□ 習得曲 平調（ひょうじょう）5曲 ※主に祭礼奉仕の際に演奏する曲目です。

えてんらく ごじょうらく ばいろ けいとく おうじよのきゅう
越殿楽 五常楽 陪臚 鷄徳 皇饗急

□ 教 材（個人で購入いただく物）

- ・ 龍笛 初心者用樹脂製 約 5,400 円～
- ・ 箏 初心者用樹脂製 約 5,000 円～ 桐箱付き 盧舌：加工済み @2,000 円×3 個
- ・ 鳳笙 初心者用樹脂製 約 120,000 円～ ケース・錦袋付き 電熱器 約 9,000 円

◎各管専用譜面 約 2,000 円 ・教材 CD 約 3,000 円

※ 税率、価格改定により価格変動が有りますので楽器購入経費などの詳細は直接面談の上
ご説明、ご相談いたします。よりグレードの高い楽器購入希望の方もご相談ください。

平成 28 年度年間温習・演奏活動日程（赤字は演奏活動・見学可）

温習日 月二回（すべて日曜日）

○初心者コース

午後 6 時 30 分～7 時 30 分 年間 15 回 1 万 5 千円（但当日欠席時返金無し、月毎分納可）

3 月 13 日（説明会：於・新川神社本殿 入門心得、担当楽器選定、備品購入など）

4 月 3 日 午後 1～4 時：道場竣工祭奉仕、内覧会奉納演奏 夜：温習会

4 月 24 日 午後 1～4 時：神道道場内覧会奉納演奏 夜：温習会

5 月 8 日・15 日：お田植え祭祭典奉仕・22 日

6 月 5 日・19 日

7 月 3 日・24 日

8 月 7 日・28 日

9 月 11 日・24 日（土）：稻刈り祭典奉仕・25 日

10 月 9 日：町新庄祭騒動（みや・ふえす）・19 日（月）新川神社秋祭奉納演奏

11 月 6 日・13 日

※講師都合により日程変更の場合、予めお知らせいたします。

※温習場所は境内施設の参集殿（新設）等、人数など都合により別場所に移動します。

※ 各管主席講師不都合の場合は代行の講師が担当する場合があります。

□鷹乃羽雅楽会の活動内容

毎月の練習の成果として神社祭礼時に御神前奉納演奏を目標と致します。ひいては年中行事（御田植祭、稻刈り祭、秋祭奉納演奏など）や、対外的な演奏活動（祝賀会の清興など）に参加する事ができます。

※対外的な雅楽体験講座・雅楽説明会もご要望により随時おこないます。

※将来的には児童も交えて巫女舞の神楽なども奉納演奏できればと思います。

☎930-0992 富山県富山市新庄町 2-13-47 新川神社社務所（神職：船木家）☎・Fax 076-441-8186

○ 神職より一言

雅楽を見たり聞いたりするだけでも魅了されますが、実際にみずから演奏をしてみると、みんなと合奏することが一番楽しいです。自らが演奏することにより音楽への理解度が高まり、さらに見たり聞いたりする楽しみが倍增すること請け合います。

「神皇正統記」（北畠親房著）より

「～音楽は四学（詩・書・礼・楽）の一つで政治を行うときの根本である。現在音楽が芸能の様に思われるのは無念、世の悪風卑俗を変えるのに音楽より良い物は無い。～」